

【審査講評】

日本画	<p>全体的に高齢ながら、自分独自の色彩、構成を考慮しながら生き生きとした絵を描いている。県知事賞の「コスモス」は、92歳の最高齢にもかかわらず、若々しく色彩も豊かで調和もとれている。コスモスが風に吹かれて揺れているようだ。</p> <p>県社協会長賞の「深山秋景」は、晩秋の風情を見事に描いている。遠景、中景、近景と空気感を見事に表現したのが魅力的である。色合い、筆使いも日本画らしく仕上げている。</p> <p style="text-align: right;">(渡邊 宏／藤田八重子)</p>
洋画	<p>豊かな表現力の誠実な力作が好感を持たれた。これからの伸びがとても楽しみである。</p> <p>しかし、写実に捉われすぎず自分なりの表現「何を描きたいか」を絞り込めばもっと素晴らしい作品になるだろう。</p> <p>来年の出品に期待する。</p> <p>県知事賞の丹野さんの「夏の母子」、伸びやかな構図と個性的な色彩は、母子の温かみが伝わってくる。骨格も正確。</p> <p>県社協会長賞の田中さんの「鷺の川清流（丸森町）」は、水彩画特有の美しさを感じられる。水、風、鳥の音が観る人にあたかもこの風景の中に居るように想像させてくれる。調和のとれた作品だ。</p> <p>奥行きを巧みに表現している。</p> <p style="text-align: right;">(大場文雄／鈴木美枝子)</p>
彫刻	<p>出品数は多くないが、木、石、ブロンズ、石膏、ガラスと多様な作品がそろった。</p> <p>山形県知事賞の「窓」は、女性像を取り囲む空間の構成がみごとである。</p> <p>石の扱いも手馴れていてみごと。</p> <p>これからの作品も楽しみである。</p> <p>山形県社会福祉協議会長賞の「かのん」は石膏着色の頭像で、塑像の力強さがある。</p> <p>作品の切り方もうまい。</p> <p>金賞の「野鳥物語」は、野鳥を20羽、表情豊かに制作した姿勢に努力のあとがうかがえる。</p> <p>楽しんで制作した過程も容易に想像でき好感が持たれた。</p> <p style="text-align: right;">(鴨田徳康／菅井正明)</p>
工芸	<p>工芸は、素材、技法ともに多種多様で、並列的に「良し悪し」を語るべきではない。</p> <p>素材をよく理解し、存分に表現されているか、広い展示会場での見栄えはどうか、に重きを置いた。</p> <p>県知事賞の「静韻」は、重厚の中にも細部に気配りのなされた壁面作品で、木の表皮を用いた独特の表現は高く評価できる。</p> <p>県社協会長賞の「華」は、粘土によるアートフラワーで、全体を淡い色調にまとめつつ、湧き上がるような造形で、装飾的になりがちなモチーフを生命感あふれる形に仕上げている。</p> <p style="text-align: right;">(會田健太郎／吉田宏信)</p>
書	<p>今回の作品を見ると2×8尺の大作が多く出展されており、会場の雰囲気が大変良く感じた。</p> <p>作品内容は、書風としては中国の明清時代の書法を学んだ方が多く、力感あふれる作が多く、展示会にふさわしい書風で出展されたことが良かったと思う。</p> <p>入賞では、県知事賞の作品は四行書きで紙面一杯に伸び伸びと書き、文字をしっかりと書き込んでおり、線質も練度の高い線條である。</p> <p>品格のある秀作である。</p> <p>県社協会長賞は、色紙を使用し、細字の多字作で纏めた大変落ちつきある作である。</p> <p>しっかりとした筆法で大字に負けない強さがあり素晴らしいものである。</p> <p style="text-align: right;">(青柳祥雲／植松龍祥)</p>
写真	<p>全体的に祭りや風景、日常生活などを撮影者それぞれの視点で切り取ったレベルの高い作品が集まっている。</p> <p>県知事賞の「能」は、夕陽能を捉えたもので夕焼けに染まる空をバックに山戸能の舞を的確な露出とシャッター速度で撮影したもので、構図的にも素晴らしい作品に仕上がっている。</p> <p>県社会福祉協議会長賞の「鷹匠」は、県内最後の一人となった鷹匠と鷹の長年連れ添った老夫婦にある信頼感のようなものが画面から滲み出てくる作品に仕上がっている。</p> <p style="text-align: right;">(飛塚英寿／阿部直美)</p>

【お問合せ】

第28回山形県健康福祉祭「美術展」事務局
 社会福祉法人山形県社会福祉協議会
 〒990-0021 山形市小白川町二丁目3番31号
 TEL 023 (622) 5805 FAX 023- (622) 5866